

葛川中学校 第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成26年11月14日（金） 第2校時

場 所 第2学年A組教室

生徒数 男子1名 女子1名 計2名

指導者 中嶋 麻衣

1. 単元名

「いにしへの心を訪ねる」（教材名：「仁和寺にある法師」—『徒然草』から）

2. 単元目標

（関心・意欲・態度）

・古典の文章を進んで朗読しようとする。

（読む能力）

・人物像や場面の状況を捉えながら、作者のものの見方や感じ方を読み取ることができる。

（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

・歴史的仮名遣いを正しく直し、古語の意味に注意して読むことができる。

3. 研究主題とのかかわり（指導によせて）

本単元の「いにしへの心を訪ねる」は、昔の人のものの見方や考え方に触れ、古典に親しみをもつことを学習の目標としている。古文や漢文には、それぞれ時代やジャンルなどによる特有の調子やリズムがあり、それが古典としての魅力を支える要因の一つにもなっている。本単元では、その古典の魅力を味わうことができる。また、古典には現代に通じるものの見方や考え方が一方、現代とは違った、もしくは現代人が忘れてしまったものの見方や考え方が描かれている。そのような昔の人の心に触れ、古典の世界を楽しみながら、今を生きる自分自身を振り返るきっかけにすることもできる。本教材の「仁和寺にある法師」は、非常に読みやすくわかりやすい内容であり、古典の随筆に親しむのにふさわしい教材であるといえる。

本学級の生徒は、二人とも文章の音読を積極的に行ったり、授業のノートをしっかり取ったりするなど、比較的意欲をもって国語の学習に臨んでいる。古典の文章においても、歴史的仮名遣いを正しく直し、リズムや調子を感じながら読むことは意欲的に行っている。その一方で、学習内容の理解は十分とは言えず、多少なりとも国語の学習に苦手意識をもっている。答えがはっきりとわかっている場合や、限られた中から答えを探す場合は自発的に発言をするが、文でまとめて答えるような場合には、発言に消極的になってしまう。抽象的な意見はもっているが、それを具体的に言い表すことが苦手なようである。また、学習の形態として、教室後方の作業机（学びのスペース）でのペア学習を積極的に取り入れているが、お互いの意見を伝えるだけで終わり、そこから理解を深めるために意見を比較したり、話し合いをしたりすることにはつながりにくい。あるいは、教師を頼りとして「生徒—教師」間の交流で終わってしまうことが度々ある。

学習するにあたっては、朗読を繰り返し行うことで、簡潔な文章で表現された本教材のリズムや調子に親しみをもたせたい。また、本教材は一人で勝手に判断・行動した法師のおかしさに気づくことができるかで、教材に対する興味が大きく変わると考えられ、その後の学習に対する意欲にも影響を及ぼす。そこで、古典の基礎知識や深い読み取りの前に、この法師の失敗について気づかせたい。そのために、法師がどこで何をしていたのかを地図や付箋を使って整理する学習を取り入れる。この学

習活動は、学びのスペースにてペア学習の形態で行い、一つずつ状況を理解しながらまとめていくように指示する。このとき、教師は学びのスペースにいるが、発言は極力控える。そうすることで、生徒同士の交流が活発になり、二人ともがこの文章のおもしろさに気づくことを望む。ここで読み取ったおかしさは、生き方の問題として現代の社会で通用する人間観・人生観につながる。そこで、最終的には文章の内容を自分の経験に引き寄せて、古典に親しむ態度を養いたい。

4. 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語事項
古典の文章特有の言葉遣いやリズムを捉え、読み慣れようとしている。	登場人物の行動や気持ちをふまえて、作者の思いを想像し、ものの見方や考え方を理解している。	歴史的仮名遣いを正しく読み、現代語訳や注釈を参考に内容を捉え、自分なりの考えをもっている。

5. 単元の指導計画（全9時間）

過程	○学習活動	◆評価規準 *評価方法 【評価の観点】
1	<p>「平家物語」</p> <p>○「平家物語」の冒頭部分を繰り返し朗読する。</p> <p>○「平家物語」独特の調子やリズムに慣れ、その特徴を知る。</p> <p>○「平家物語」のテーマについて理解する。</p>	<p>◆古典の文章特有の言葉遣いやリズムを捉え、読み慣れようとしている。</p> <p>*朗読の様子、観察</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>◆「平家物語」の基礎知識や表現方法、語の意味、独特の言い回しを理解して朗読している。</p> <p>*朗読の様子、観察</p> <p>【読む能力・言語事項】</p>
4	<p>「扇の的 — 『平家物語』から」</p> <p>○「扇の的」の古文を繰り返し朗読する。</p> <p>○登場人物の行動や場面の状況から、人物の心情について考える。</p> <p>○登場人物の行動の意味を考え、物語に描かれた当時のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。</p>	<p>◆古典の文章特有の言葉遣いやリズムを捉え、読み慣れようとしている。</p> <p>*朗読の様子、観察</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>◆各人物の置かれた状況をまとめ、そこからわかることを自分の考えにしている。</p> <p>*ノート、発表</p> <p>【読む能力】</p> <p>◆「平家物語」の基礎知識や表現方法、語の意味、独特の言い回しを理解して朗読している。</p> <p>*朗読の様子、観察</p> <p>【読む能力・言語事項】</p>
2 (本時1/2)	<p>「仁和寺にある法師 — 『徒然草』から」</p> <p>○「徒然草」を繰り返し朗読する。</p> <p>○人物像や場面の状況を捉え、作者のものの見方や感じ方について考える。</p> <p>○古語の意味や当時の様子に注意しながら内容を読み取る。</p>	<p>◆古典の文章特有の言葉遣いやリズムを捉え、読み慣れようとしている。</p> <p>*朗読の様子、観察</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>◆登場人物の行動や気持ちをふまえて、作者の思いを想像し、ものの見方や考え方を理解している。</p>

		<p>*ノート、発表</p> <p style="text-align: right;">【読む能力】</p> <p>◆歴史的仮名遣いを正しく読み、現代語訳や注釈を参考に内容を捉え、自分なりの考えをもっている。</p> <p>*朗読の様子、ノート</p> <p style="text-align: right;">【言語事項】</p>
2	<p>「漢詩の風景」</p> <p>○漢詩特有の言葉遣いや調子に触れ、繰り返し朗読する。</p> <p>○漢詩に描かれている情景や作者の心情について考える。</p> <p>○漢詩の表現で気に入ったものを挙げ、その理由を述べる。</p>	<p>◆漢詩特有の言葉遣いや調子を捉え、読み慣れようとしている。</p> <p>*朗読の様子、観察</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p> <p>◆漢詩に描かれている情景を想像し、作者の心情について自分の考えをもっている。</p> <p>*ノート、発表</p> <p style="text-align: right;">【読む能力】</p> <p>◆体言止め・倒置・対句など、漢詩特有の調子を理解している。</p> <p>*ノート、発表</p> <p style="text-align: right;">【言語事項】</p>

6. 本時の授業

(1) 本時のねらい

- ・古文を繰り返し朗読し、「仁和寺にある法師」の登場人物の行動を整理する。

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	教師の指導と留意点・評価	学び	連携	学び・連携の留意点
導入	○「いろは歌」「平家物語」「徒然草」を暗唱する。	○一斉読みだけでなく、交代で個人読みをさせたり、速さに変化をつけたりして複数回読ませる。		○	既習の古文を暗唱することで、古文独特のリズムや調子に親しみをもたせる。
展開	<p>○本時のねらいを知る。 「古文を繰り返し朗読し、『仁和寺にある法師』の登場人物の行動を整理しよう。」</p> <p>○「仁和寺にある法師」を朗読する。</p>	<p>・「徒然草」の基礎知識を伝える。</p> <p>○教師の範読を聞いた後、読み方に変化をもたせながら繰り返し読ませる。</p> <p>◆古典の文章特有の言葉遣い</p>			

	<p>○法師の行動を整理し、法師がどんな失敗をしたのか理解する。</p>	<p>リズムを捉え、読み慣れようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○地図や付箋を用いて、法師がどこで何をしていたのかを整理させる。</p> <p>・法師の目的と実際の行動とにズレがあることに気づかせる。</p> <p>◆登場人物の行動や気持ちをふまえて、作者の思いを想像し、ものの見方や考え方を理解している。</p> <p>【読む能力】</p>	○	<p>付箋が貼りやすいように、大きめの地図を用意する。</p> <p>教師も学びのスペースに座るが、子ども同士の関わりを増やすため、発言は極力控える。</p>
まとめ	<p>○法師の失敗に対する作者の考えを確認する。</p> <p>○本時の学習をふまえて、「仁和寺にある法師」を朗読する。</p>	<p>○古文中に書かれている作者の考えを見つけさせる。</p>		

(3) 授業の観点

授業の後半に、学びのスペースでのペア学習を設定している。これまでは、自分の考えをまとめてから交流する学習が比較的多かったが、今回は意見を出し合いながら考えをまとめていく展開にしている。自分の考えをまとめるための材料が十分ではないことから、なかなか発言をしようとならない生徒のために、二人で協力して材料を集め、共有させることが目的である。この学習活動では、地図や付箋を利用することで、お互いの考えを視覚的に確認できるようにしている。一緒に考えを進めていくことで、生徒が理解を深めていく姿を見ていただきたい。